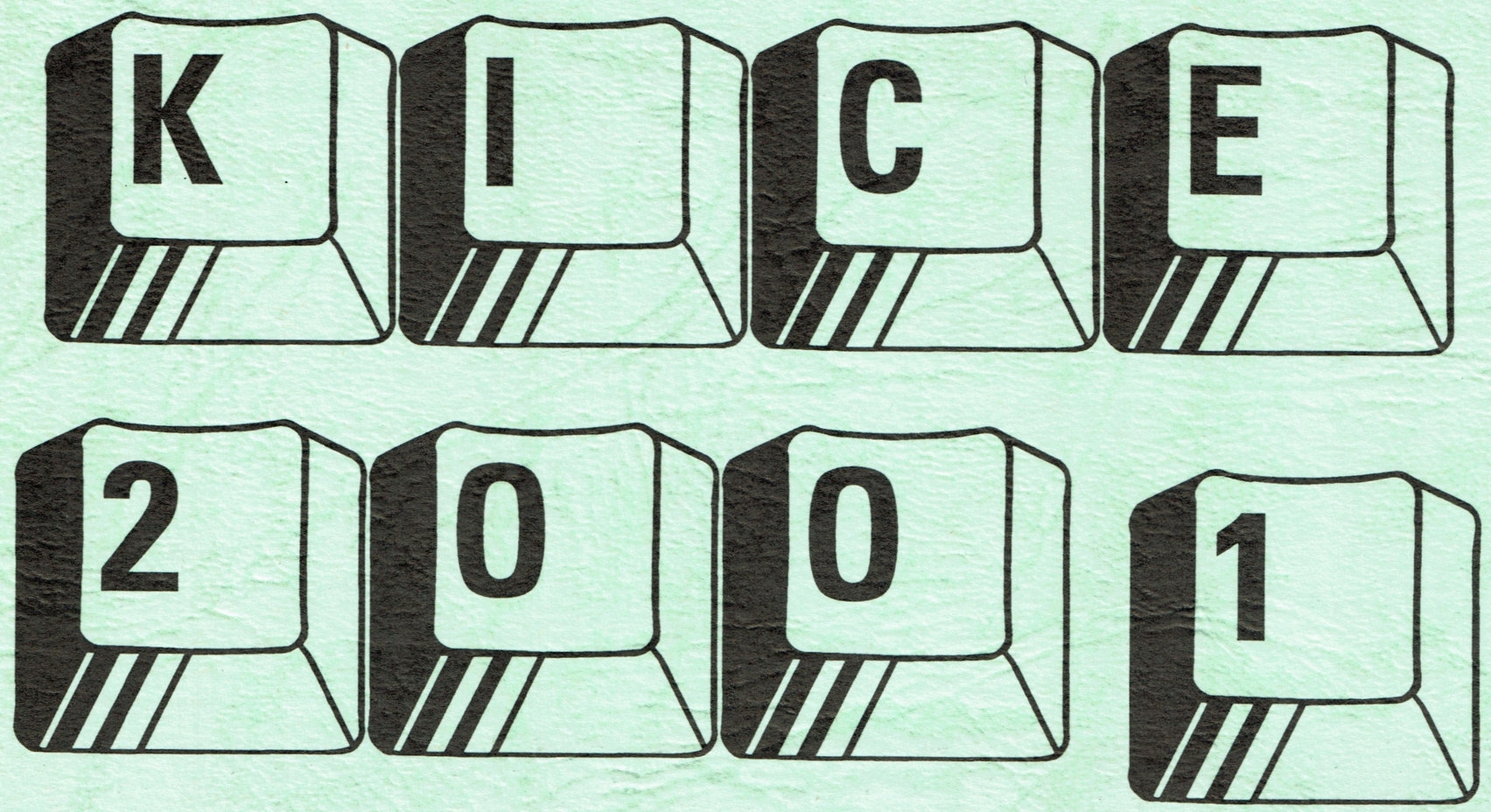

情報教育　次なる一歩

－ネットワークを学びに活かす－

2001年公開特別研究集会　資料集

KICE
神奈川インターネット教育活用研究会
http://kice.edhs.ynu.ac.jp/

本町小の「秀吉」から川和東小の「政宗」へ

出口　和生
横浜市立川和東小学校
kazuo@yokohama-exit.com

1. 本町小の豊臣秀吉！

今から遡ること 8 年。平成 5 年に，私は自分の横浜市立本町小学校での役割について考えたことがある。そうしたとき，戦国の世を走り抜けた武将の名前が思い浮かんできた。その名は「豊臣秀吉」。

以下，当時の文章から一部修正引用する。読んだことのある方はこのページは「政宗編」のプロローグとしてご勘弁を。

(1) 信長からの引き継ぎ

私の前任者は，現在和歌山大学助教授の野中氏。彼は昭和 63 年，ほとんど機能していなかった本町小コンピュータを再生させるべく整備を進め，平成元年度には，オープンスペースへのコンピュータ分散配置というそれまでに例のない事業を成し遂げた。まさに，時代の風雲児「織田信長」であった。その野中氏とともに過ごした 1 年間は，破竹の進撃を続けて全国制覇へひた走った信長晩年のようであった。このときコンピュータ活用に関する数々のノウハウを学びとっていった。

平成 3 年，信長の去った後に残ったものは，40 台の分散配置されたコンピュータとそれまでの実績という大きな遺産であった。これらを更に発展させ，その後の全国大会などで成果を示すことが，遺産を引き継いだ私に課せられた使命と感じた。

(2) ワープロ狩りとコンピュータ検地

コンピュータを子どもたちが効果的に使うには，まず教員がコンピュータを使うことのメリットを知らなくてはならない。こうした考えから，「ワープロ狩り」と「コンピュータ検地」を実施した。

まず，校内公文書はすべてコンピュータ・ワープロソフトによる統一出力を実施した。ワープロ専用機での入力も認めたが，出力は必ず学校のレーザプリンタで行うことを原則として，半強制的に教員のコンピュータ使用を義務付けてしまった。このいわば「ワープロ狩り」には，ワープロ専用機が全盛であったこの時代に反対も多くあったが，結果として全教員がコンピュータを日常的に使用するという状況を生みだした。

次に，授業におけるコンピュータ活用という視点で，学年毎のコンピュータ活用報告を実施した。コンピュータは便利で効果があると思われる場面で必要に応じて使えば良いと考えていた。しかし，そのままでは教員のスキルによってコンピュータ活用に偏りが生じてしまうので，「こんなソフトがありますよ。」「昨年はこんな実践をしていますよ。」といった情報をガイドラインとして提示し，それに基づいた報告を行う「コンピュータ検地」を実施した。

(3) 全国制覇への道

平成 5 年度，全国小学校理科研究大会授業校。平成 7 年度，全国小学校社会科研究協議会授業校。そしてなんと言っても，平成 6 年度～平成 12 年度の「100 校プロジェクト」～「新 100 校プロジェクト」～「Ｅスクエアプロジェクト」。

これら全てで「コンピュータ・インターネットを使う」というハード優先の考え方ではなく，「実体験・教科内容を重視する授業で，こんなことができたら…こんなものがあったら…」という授業優先ソフト優先の考え方を貫いた。その結果として，教育課程には位置付いていなくても全ての学年学級でコンピュータを用いた授業を公開することができた。

そして，「学校中どこでもネットワーク」という全校ネットワークの実践は，全国のコンピュータ・インターネット活用の方向性を示したと自負している。

(4) そして家康へ

全国大会や全国規模の研究発表を乗り越え，世も安定してくると，次第に新たなる野望が頭を擡げてくる。しかし，時代の最先端を追うことだけが教育現場に必要だとは思わない。地道に「今日の授業にあると便利なものを自然に使うこと」を目指していくことも忘れてはならない。時代は動き始めた。信長や秀吉のようにコンピュータ担当者が先頭に立って切り回す時代から，家康の時代へと・・・

秀吉は晩年，朝鮮出兵という夢の途中でこの世を去った。私も大きな成果と満足感を抱きながらも，夢の実現の前に本町小を離れることとなった。本町小の家康には宿題を残して・・・

2. 川和東小の伊達政宗へ

時は平成 13 年 4 月。11 年間で一百姓から全国制覇を成し遂げた本町小を後にして，私は新天地で生まれ変わることとなった。その場所は，横浜市立川和東小学校。都筑区の人には失礼だが，横浜の中心地からは遠く離れた場所だ。この地での私の役割は何だろうか。8 年前と同じように考え浮かんできたのは，京都や大阪，江戸から遠く離れた東北の地で伊達男と呼ばれ独自文化を築いた武将「伊達政宗」。

政宗は元服した頃から「信長のようになってみたい」と言っていたという。信長が没した後は，自分にも天下が回ってくる可能性があるのではと感じていた。それにはまず東北の地を一日も早くまとめあげ，関東へ向かい，その後は京へと上る。天下人政宗計画が実行されていく。

(1) 奥州「川和東」に足りないもの

奥州統一をめざす政宗に求められること。それは，第一に城（校）内と地域の状況把握だ。川和東城の装備を見ると，一般的な横浜仕様装備は全て整っている。しかし，戦国の世を勝ち抜くには様々な点で足りないところが見えてくる。秀吉居城として最大の規模と最高の装備を誇った本町城と比較して，今後の川和東城の増強策を考えたい。

(ｱ) 一人一丁の鉄砲隊

本町城では，約 400 名の児童に対して 100 台のコンピュータが配備されていた。400 名が同時に使うことはまずないので，使う気になれば学級規模では優に一人一台の環境で臨むことができた。

しかし川和東城は，約 800 名の児童に対して 10 数台しかコンピュータが配備されていない。これでは学級規模で使おうにも台数が足りない。なんとかどんな旧式のものでも良いから鉄砲の数を増やさなければならない。

(ｲ) 本丸だけでなく出城にも装備

本丸コンピュータ室にいくら鉄砲があっても，それを取りに行くまでに時間がかかったのでは意味がない。本丸から離れた出城にいても，すぐに臨戦態勢に入れるようにすること。これは本町城では 11 年前から当たり前のことだ。各教室に難しいのであれば，少なくとも廊下や多目的室など出城からでもすぐに手が届く場所に配備しなくてはならない。

(ｳ) 城下町・街道の整備

武器の数だけでなく，生活が豊かで快適にならなくては，民はついてこない。民がインターネットの便利さ快適さを感じるようにしなければならない。また，海外からの情報も取り入れなくてはならない。

ところが，城下から外に出る街道の太さが 64K という点は，本町城も川和東城も変わりはないのに，体感インターネットスピードは全く違っていた。その原因は，街道と関所プロキシーの整備がなされていないことはすぐに分かった。なんとか街道を太くするとともに関所での出入国管理を行わなくてはならない。

(ｴ) 家臣の掌握と指揮体系の確立

川和東城内の家臣は，本町城の家臣に勝るとも劣らない強者揃いだ。しかし，それぞれがバラバラにワープロや手書きなどを使っていて，指揮体系が確立されていない。これは正に 10 年ほど前の本町城の状態に近い。当時，秀吉が行ったような「痛みを伴う改革」を行わなくてはならない。

(ｵ) 近隣諸国との同盟

川和東城の周りを見ると，そこは「港北ニュータウン」と呼ばれるたいへん肥沃な土地だ。都筑区だけのローカルケーブルテレビが普及していて家庭でのインターネット普及率も高い。また，上杉謙信や武田信玄のような視聴覚教育の猛者も近隣に城を構えている。これら「家庭」「地域」「近隣城」との同盟関係も考えて行かなくてはならない。

(2) 川和東「政宗」の戦略

政宗は，信長の合戦におけるオリジナリティ溢れる戦術の発想に尊敬の念をいだいていた。そして，政宗自身も伊達戦法を練った。そのひとつが騎馬鉄砲隊。さらに，伊達者として人々を驚かせ，秀吉の前に白装束で現れた逸話も有名だ。また，家康にも一目置かれていた政宗は，江戸時代になっても天下のご意見番ともいうべき地位を確保していた。

川和東の政宗はまだ動き出したばかりで，計画の段階だが次のような戦略を考えている。

(ｱ) 無線 WindowsCE 鉄砲隊

(ｲ) 高学年出城への鉄砲隊配備

(ｳ) プロキシー関所設置・領地内 LAN 拡張

(ｴ) 家臣室の LAN 化による刀狩・検地

(ｵ) 都筑同盟・ケーブルネットワーク

高性能ではなくても使いやすく数を集められる鉄砲「WindowsCE」を協賛同盟国の協力を得て，多数集める。また，それらがモバイルでインターネットやデータ通信が行えるよう「無線 LAN」を組み合わせる。さらにこれらは本丸コンピュータ室ではなく，高学年出城に配備する。(ｱ)(ｲ)は現在進行中。さらに，(ｳ)(ｴ)(ｵ)の順に計画中であり，(ｳ)(ｴ)は今年度中。(ｵ)は将来的に実現させたい政宗の夢・・・。

ＫＩＣＥのあゆみ

（１９９６年１月に行われた１００校の研究会会場において）
出口「神奈川県内のインターネット接続校で集まれたらいいのにな～。」
高橋「じゃあ僕がメーリングリストを作りますよ。」

これが，ＫＩＣＥのスタートでした。

１９９６年度

この年は、メーリングリスト参加者の学校を順番に会場にして施設見学を含めての研究会を持ちました。

第１回研究会　大和市立林間小学校（５月１８日）
第２回研究会　横浜市立本町小学校（６月）
第３回研究会　横浜国立大学（８月２５日）
第４回研究会　清泉女子学院（９月７日）
第５回研究会　横浜市立中川西小学校（１０月５日）
第６回研究会　川崎市立川崎総合科学高校（１１月２３日）
第７回研究会　横浜市立本町小学校（３月１５日）

１９９７年度

初期の目標であった「神奈川１００校参加校の情報交換と連絡網」という目的が前年度に達成され、目標を見失っていた時期です。４月～１２月までオフライン定例会の実施もなく、メーリングリストも開店休業状態が続きました。１月にオフライン会合を復活させ、新生ＫＩＣＥをめざした話し合いが持たれました。

第１回研究会　横浜市立本町小学校（１月２４日）
第２回研究会　横須賀市教育研究所（２月２８日）
特別講演会　横浜市立本町小学校（３月８日）

３月８日には静岡大学の永野教授をお招きして、これからのインターネットを利用した教育の動向についてお話を伺いました。またこの会を機に、初期「ＫＩＣＥ」は解散し１００校参加校の連絡調整リストから発展し、広くインターネットを教育に利用していくことを考える会として内容を一新して「新ＫＩＣＥ」が発足しました。名称はそのまま継承し、横浜市立本町小学校の出口和生教諭を初代代表に選出しました。

１９９８年度

前年度の活動を見直して、今年度「新ＫＩＣＥ」では偶数月には横浜市立本町小学校を会場に情報交換定例会を、奇数月には会場を移しながら技術研修会を持つことが決定され活動を行いました。

第１回情報交換定例会　横浜市立本町小学校（４月１８日）
第１回技術研修会　横浜市立大口台小学校（５月１６日）
第２回情報交換定例会　横浜市立本町小学校（６月２０日）
第２回技術研修会　川崎市立桜本小学校（８月４日）
第３回情報交換定例会　川崎市立桜本小学校（８月４日）
第３回技術研修会　（中止）
第４回情報交換定例会　横浜市立本町小学校（１０月１７日）
第４回技術研修会　横浜市立商業高校（１１月２１日）
新１００校プロジェクト関東地区活用研究会共催（１２月４日）
第５回情報交換定例会　横浜市立本町小学校（１２月１９日）
第５回技術研修会　大和市立林間小学校（１月３０日）
第６回情報交換定例会　横浜市立本町小学校（２月２０日）
第６回技術研修会　１９９９年度第１回と統合して４月３日実施

１９９９年度

代表任期を１年間とし、２代代表に清泉女学院の土屋至教諭を選出しました。基本的に情報交換会の会場は交通の便を考慮して横浜市立本町小学校で継続することにしました。夏休みには横浜国立大学公開講座のうちの一つ

をＫＩＣＥメンバーで実施致しました。

第１回特別会　　慶應大学湘南藤沢キャンパス（４月３日）
第２回情報交換定例会　横浜市立本町小学校（５月１５日）
第２回技術研修会　　横浜国立大学(６月１９日)
第３回情報交換定例会　横浜市立本町小学校（７月１７日）
8/10-12　公開講座　横浜国立大学
第４回情報交換定例会　横浜市立本町小学校（８月２１日）
第３回技術研修会　　横浜市立盲学校（９月１８日）
第４回技術研修会　　横浜市立中川中学校（１０月１６日）
第５回情報交換定例会　横浜市立本町小学校（１１月２０日）
第５回技術研修会　　インターネットウィーク Edu-Talk ミーティングに参加(１２月１８日)
第６回技術研修会　　横浜市立別所小学校（１月２９日）
KICE2000 準備会　　横浜市立本町小学校（２月５日）
第７回技術研修会　　清泉女学院中学校（２月１９日）
3/10　Ｅスクエア･プロジェクト成果発表会（CEC 主催、於：パシフィコ横浜）で KICE200 冊子を配布
第６回情報交換定例会　　２０００年度第１回定例会と統合して４月１日実施

２０００年度

３代代表に慶應大学ＳＦＣの山根健さんを選出しました。秋の学校休業日の土曜日に横浜国立大学公開講座のうちの一つをＫＩＣＥメンバーで実施致しました

第１回定例会　　横浜市立本町小学校（４月１日）
第２回定例会　　横浜市立神奈川中学校（５月２０日）
第３回定例会　　慶応大学湘南藤沢キャンパス(６月１７日)
第４回定例会　　大和市立引地台小学校（７月１５日）
7/30-31　LINUX サーバ構築研修会（横浜市立盲学校）
8/26-27　『インターネットと教育』フェスティバル 2000（於：早稲田大学）に参加
（定例会に代える）
第６回定例会　　横浜国立大学（９月１６日）
10/7、10/28、11/11　公開講座　横浜国立大学
第７回定例会　　横浜市立別所小学校（１１月１８日）
第８回定例会　　横浜共立学園（１２月１６日）
12/23-24　LINUX 研修会（横浜市立浜中学校、横浜市立盲学校）
第９回定例会　　横浜市立あざみ野第二小学校（１月２０日）
第１０回定例会　　横浜市立盲学校（２月１７日）

２００１年度

４代代表に横浜国立大学の額田順二さんを選出しました。

4/2　お花見（横浜市立本町小学校、ネットワーク敷設に関する技術研修会に変化）
第１回定例会　　横浜市立本町小学校（４月７日）
第２回定例会　　横浜市立柏尾小学校（５月１７日）
第３回定例会　　横浜国立大学附属横浜中学校（６月１６日）
第４回定例会　　横浜市立境木中学校（７月１４日）

KICE2001 公開特別研究集会

【 編 集 後 記 】

●猛暑の中を、ネットワークの「自立・分散・協働」の３原則をフル回転しながら、猛烈な集中力を持って「KICE2001 資料集」を作り上げました。しかも８月１８日研究集会の準備と並行して行っているものだから、そのすさまじいばかりの熱気と迫力にはとてもついていけないなと思いながらも、あたふたとついていっている自分を発見して驚いています。

●今回は、自主企画の研究集会のテーマ「情報教育　次なる一歩　―ネットワークを学びに活かす―」と連動して、単なる実践報告の羅列ではない「テーマをもった」「資料集」とすることとしました。この種の報告集はともするとコンピューターの専門用語が飛び交うハードよりの記事など「周辺部分」の内容が多くなりがちですが、できるだけ「教育実践」をとおして児童・生徒がどう変わっていったかという「核心部分」の内容を増やすことを願っていました。

●この KICE の魅力は、なんといっても小・中・高の現場の教員を中心とし、大学、教育センター、そして企業から地域の情報ボランティアまでの多様で個性的な方々のネットワークを通じた「打てば響く」responsible な関係にあるといえましょう。新カリキュラムの本格的な実施を前に、「総合的な学習」や「情報教育」を担当して試行錯誤を行っている現場の教員たちに少しでも勇気と励ましと助けとなったら幸いです。そしてさらにそのような現場での試行錯誤を共有するために、KICE に参加されることを願ってやみません。（ＩＴ）

広告・協賛 社名一覧

【広告・掲載順】

㈱日立製作所
セコムラインズ㈱
㈱ジャストシステム
バディ・コミュニケーション㈱
㈱ジェイエムシー
ハイパーコンテンツ㈱
㈱インプレスコミュニケーションズ
日本文教出版㈱
㈱ギデオン
南関東カシオ販売㈱
エプソン販売㈱
昭和電線電纜㈱
㈱内田洋行
アライドテレシス㈱
富士ゼロックス㈱
マイクロソフト㈱

【協賛】

大日本図書㈱

ＫＩＣＥ２００１

情報教育　次なる一歩

～ネットワークを学びに活かす～

2001 年公開特別研究集会資料集

2001 年 8 月 18 日発行

発行：神奈川インターネット教育活用研究会

〒240-8501　横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-2

横浜国立大学　教育人間科学部　額田研究室内

印刷：有限会社イソノ　印刷事業部

〒235-0016　横浜市磯子区 3-10-4

電話：045-753-2549